

アオサギの捕獲方法の確立と追跡調査の可能性の検討

The establishment of the method of capturing *Ardea cinerea* and the consideration of the capability of the backtrack exploration

○田中励起*, 守山拓弥*, 児嶋ひろみ**

1. 背景と目的

わが国の生物多様性は危機に晒されている。里地里山の生態系においては、人間による自然に対する働きかけの縮小による第 2 の危機¹⁾の影響で、多くの動植物が絶滅危惧種に選定されている²⁾。

わが国では田園地域において人と鳥獣の適切な関係の構築を進める方針を掲げている¹⁾。そこで宇都宮大学農学部農業環境工学科農村生態工学研究室では今後田園生態系の高位捕食者であるサギ類の追跡調査を行い採餌等で利用する農地の土地利用形態を調査することを計画している。

そこで本研究では、個体数が多く留鳥であるアオサギを研究対象とし、捕獲方法の確立と追跡調査の手法や内容を検討することを目的とする。そして本研究で得られた技術をチュウサギ等の他のサギ類の捕獲、追跡調査に適用することを目指す。

2. 研究の方法

アオサギの捕獲方法を考案し捕獲する。捕獲個体に発信型 GPS ロガーを装着し放鳥する。その後 GPS の位置情報を基に追跡し目視で行動調査を行う。

2-1. 捕獲方法の確立

田畑や水路法面に設置可能な無双網を製作し捕獲を試みる。無双網はアオサギの採餌場所に設置するか、餌等により誘引することを想定している。なお、捕獲は行政機関より捕獲許可を得ている。

2-2. 追跡調査

個体を捕獲し発信型 GPS を装着して放し、その後発信型 GPS からの位置情報を基に目視での行動調査を行う。発信型 GPS を用いることで、放鳥個体がどこにいるか、タイムリーに追跡できると想定している。追跡調査に用いる発信型 GPS は Trackimo (TRKM010 47mm x 40mm x 17mm ・



Fig.1 発信型 GPS Trackimo

42 グラム, Trackimo Inc. 社製) を想定している。比較的安価な民生品を用いることで、放鳥個体を増やすことができるというメリットも想定される。位置情報はインターネット回線に接続している PC やタブレット、スマートフォンにより随時閲覧可能である。そのため、スマートフォンで放鳥個体の位置をチェックし、双眼鏡およびフィールドスコープにより正確な位置や利用している場所の土地利用形態(水田, 畑地, 水路等)を確認できると想定している。また位置情報は CSV 出力機能を用い、CSV 形式で出力、保存することができるため、行動圏を把握することも可能であると考えている。

3. 進捗状況

アオサギを含むサギ類の捕獲許可を申請し、許可を得た。また、捕獲用の無双網を作成中であり、今後現場への設置および捕獲を始める計画である。

【引用文献】1)生物多様性国家戦略 2012-2020 2) 環境省レッドリスト 2019

*宇都宮大学 (Utsunomiya Univ.) ***宇都宮大学大学院(Graduate School of Utsunomiya Univ.)

キーワード：生物多様性、環境保全